

## <観音山古墳の横穴式石室>

観音山古墳の石室は羨道と玄室からなっています。石室全体の規模は、全長約12.6mです。玄室の長さは約8.2m、奥壁幅約3.8mで玄室の面積は国内最大級です。奥壁の高さは約2.3mあります。

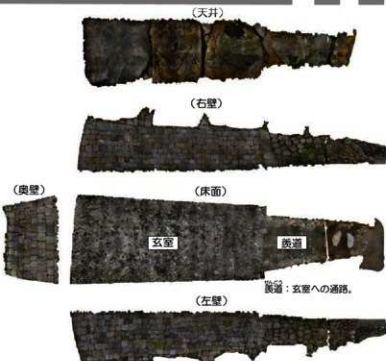
石室は壁面に礫山起源の角閃石英山岩が使われています。天井には半伏砂岩が使われています。牛伏砂岩は15kmほど南西から運ばれています。

角閃石英山岩は玄室の奥壁に90石、右壁に235石、左壁に242石積んでいます。また、四角に削るだけでなく、L字状に切り込んで積み上げるなど工夫が見られます。牛伏砂岩の天井石は、羨道に3石、玄室に3石架かっています。玄室の天井石の重さは奥から約22t、約16t、約12tです。石室の床面には川原石が敷き詰められていますが、奥壁から3m離れた位置に空間を区切るように、川原石が並んでいました。この区画は角閃石英山岩の川原石を一面に敷き詰め、被葬者が眠る屍床を作ったと考えられます。



### 【露出した天井石】

史跡整備を行ったときに、石室の解体工事をしました。写真は天井石と石室の裏込めが露出した状態です。



3D計測による観音山古墳石室の展開図



### 【発掘調査時の石室】

発掘調査で石室が開口した時の写真です。石室は右壁の大半が崩れ、玄室の天井石のうち、真中の1石が左壁にもたれるように倒れていました。



横穴式石室内部のイメージ

写真・イメージ等は群馬県立歴史博物館提供

## <観音山古墳の副葬品>

石室は幸いにも未盗掘であったため、銅鏡・金属製容器・装身具・武器・武具・馬具・土器など多種多様な出土品が原位置を保ったまま出土しました。その中には北斉や百濟・加耶・新羅といった現在の中国・朝鮮半島の東アジアの国々との交流を示すものが数多く含まれており、古墳時代の倭(日本)の国際交流とその外交政策に関わっていた可能性がある観音山古墳の被葬者の姿を伺うことができます。

### 【金銅鈴付大帯】

20個の金銅鈴がついた大帯です。玄室右奥から出土しました。胡坐を組んで座る男子埴輪の腰にはこの大帯によく似た大帯が表現されています。全国的にも稀少品です。



### 【鉄冑】

頂部についた突起が特徴の稀少な冑で、朝鮮半島南部の系譜をひいています。



### 【金銅心葉形杏葉】

馬を飾り立てるための馬具です。忍冬文の透かし彫りが施されています。朝鮮半島の新羅に系譜が求められます。



### 【金銅花弁形鈴付雲珠・辻金具・飾金具】

花弁形の装飾がある鈴が付いています。鞍などをつなぐ革帯に付けて装飾性を高めます。

### 【金銅歩揺付雲珠・辻金具・飾金具】

馬が歩くとき揺れる装飾が付いています。金銅心葉形杏葉の近くから出土しました。新羅や高句麗で類例があります。



### 【獣帯鏡】

霊獣や神鳥の文様がある鏡です。韓国：百濟の武寧王陵から出土した鏡の同型鏡です。



### 【銅水瓶】

細い首部と卵形の胴部が特徴的な水瓶です。中国：北斉の庫狄回洛墓から出土した銅水瓶によく似ています。また、日本では法隆寺宝物にとても良く似た水瓶があります。

<観音山古墳の埴輪>

観音山古墳からは多量の埴輪が出土しています。後円部・前方部の墳頂には家形埴輪、円筒埴輪、埴丘中段のテラス面には人物埴輪、馬形埴輪、器財（武器・武具）埴輪、円筒埴輪などが並べられていました。中堤には埴輪が並べられていなかったようです。

特に注目されるのは、石室の入口左側に樹立されていた人物埴輪群で、古墳時代の儀礼を表現しているのではないかと考えられています。これらの埴輪から前方部に向かって、振分け髪の子、甲冑を着た男子、盾持人、馬形埴輪と馬子の埴輪などが並べられていました。



VR アプリ  
「群馬古墳タイムトラベル」  
県文化振興課

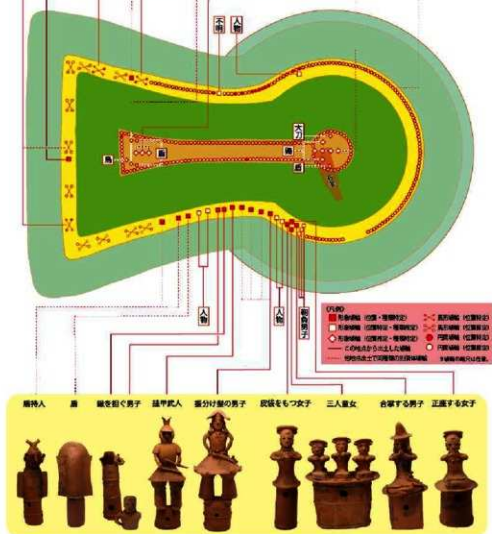
TEL : 027-226-2525



iOS 版



Android 版



観音山古墳の埴輪配列 (群馬県立歴史博物館提供)

観音山古墳石室見学のご案内

○見学可能時間 (最終受付は閉所の30分前まで)

4月~10月: 午前9時~午後5時

11月~3月: 午前9時~午後4時

○休館日: 年末年始

○団体見学の場合は申し込みが必要です。

○お問い合わせ先

県文化財保護課 TEL:027-226-4684

大人向け

# 史跡 観音山古墳

観音山古墳は井野川西岸に位置する6世紀後半に造られた前方後円墳です。埴丘長は97mで葺石はありません。古墳の周りには盾形の周堀が二重に巡っています。埴丘は2段に造られていて、後円部径は61m、前方部幅は63m、後円部の高さは9.4m、前方部の高さは9.1mです。

観音山古墳の発掘調査は昭和43(1968)年に行われました。未盗掘だった横穴式石室からは膨大な量の副葬品が出土しました。その後、観音山古墳は昭和48(1973)年に国指定史跡に、観音山古墳から出土した副葬品や埴輪などの出土品は令和2(2020)年に国宝に指定されました。

埴丘は、古墳時代当時の地面を1mほど掘込んで周堀を掘り、その際に出た土を盛り上げて築造しています。



上空から見た観音山古墳



横穴式石室内部

観音山古墳を動画で解説



観音山古墳



観音山古墳

—群馬県最大の石室を見てみよう—

<観音山古墳の周辺>

井野川西岸には、観音山古墳から南に約1km、現在の「群馬の森」のあたりまで古墳の集中するエリアがあり、「総貫古墳群」と呼ばれています。総貫古墳群には4基の大型前方後円墳があります。北から、観音山古墳、普賢寺裏古墳(全長70m)、不動山古墳(全長94m)、岩鼻二子山古墳(全長約115m、現存せず)です。

普賢寺裏古墳は5世紀前半に築造されました。埋葬施設は見つかっていませんが、竪穴式の埋葬施設と考えられます。不動山古墳は5世紀後半に築造されました。不動山古墳の墳頂にある不動堂の裏側では、過去に掘出された凝灰岩質の舟形石棺が見学できます。



1 不動山古墳の舟形石棺

—普賢寺裏古墳